とかち新聞 主筆 松山明
（発行所） 北海道足寄町 とかち新聞社 電話5－2551番
毎旬5の日発行 1ヵ月300円 1ヵ年前納の場合3,000円

# 夢は遠のいた？ 小坂山の開発

全道はおろか全国にも最大規模の一千㌶ものレジャー観光基地の建設は、四十八年いらい道路を一本つくっただけで事業中止という企業のハイランドからの通告があって、七月の定例足寄町議会でひと論議となりましたが、町民期待の夢は遠のいた様。

当時の土地ブーム、レジャー企業の波に乗って、この小坂山の売払い申請におよんだのはハイランド（旧名野上電鉄不動産）と共立グループの二社で、これが四十八年三月の町議会にも持ち込まれて、この地域の観光開発は是か非かを調査するために産業委員会に付託となったもので、その結果は八月の町議会に

一、闊葉樹地で、標高五五〇～八〇〇ｍで、樹木の成育は緩慢している

二、帯広畜大学長は、農業も大切だがレクリエーションも欠かせず、小坂山一帯の草地造成は難しいが、肉牛の放牧は可能である、としている

三、委員会の結論として造林地として適格とは判断できない、以上の観点から町民もひろく利用できるレクリエーション基地として道東地域総合計画の推進のためにも開発は適切と判断するが、道内各地でみられる投機的土地買い占めに特に慎重な対処を望むものである

との報告があって、九月の町議会に小林町長から正式にハイランドへ一反あたり二万円で売払い処分の提案をしたものですが、賛否両論が対立して十五対七の多数決で原案どおりに議決となったものの、反対の斉藤議員、宮川孫市、遠山謙、神本三也、香川博彦、久保田庄太郎、大浦武夫の五議員の意見はマチマチで、ハイランドではやれそうにない、町有地を私有地にすべきでない、共立グループを支持する声などがあったようですが、反対しながらも遠山議員は、売払い条件の五十六年九月三十日までに開発行為が完了しない場合は町に所有権を移転する旨の仮登記をする、そして違約金は処分価格の六〇％とするのは「この条件は過酷で失敗させる要因とならないか、町が積極的に協力しなければ成功しない、町が手カセ足カセでなく、本当に成功させたいなら会社と心中するくらいの覚悟でなければならない」と主張していました。

正式提案の前に鳴海一郎議員から『産業委員会の結論と同じ考えで業者によって開発するのが一致したがまかり間違えばクビとなるあなたは責任をもってやる政治生命をかけると決意するのか』とツメよられたのに対して小林町長は『町営では困難性があり、多くの意見を聞き最終的には町長の私の責任で契約し私の全責任をもって実行したい』と答弁したヤリトリがあったように、町としては念には念を入れて安全措置を講じたわけで、遠山議員が指摘したようにそれは"過酷"ともいえそうで、土地代金を全額支払いながら町の担保に入っているようなもので、ハイランドの所有地でありながら町の"仮登記"が手カセ足カセとなって銀行からの融資もうけられない、大手企業との提携も困難なので、このさい町の仮登記は解除して、ハイランドが自由に使える土地にしてほしいということで、町としてはこれを受け入れて次期町議会に議決変更の提案をする意向ですが、その場合の問題点は―。

## 特約解除は是か非か

もともと小坂山の一千㌶は、町は金がほしくて売ったわけではなく、この不毛の土地を有効に活用して観光開発をおこなうというから売払いに応じたもので、そのために厳しい条件をつけて売主には絶対に有利で買主には不利で民法上には疑義はあっても双方合意のうえで契約が成立して、土地代金の支払いは実行したものの、開発行為そのものは、期限はあと四年は残っているのに、小林町長の判断ではハイランドでは観光の見込みはないので、特約条項は解除して土地を売っただけのことにしたいということで、解除をすれば金融が容易となり大手企業との提携の話も有利になって目的の開発がすすめられるというのならまだしも、解除しても見込みのないところが問題。

そこで解除はまかりならんとしてハイランドの要望を蹴つた場合、いまのところ相手は町の買戻しに応じる意志はないので、ズルズルと期限の五十六年までに立ち至つて契約どおりに町が一億円で買戻しができて円満に解決するかといえばそうはいかないかもしれません。

というのは、ハイランドとしては約束どおりに一億円でスンナリと応じるとは考えられないことで、もともと町との契約に法的疑義があり、土地の境界測量は会社の負担でやらされたうえに、買った土地が放牧林として農業振興地域となっていたためにこの解除に会社はかなりの日数と費用をかけているうちに環境規制が厳しくなって道路一本だけで許可が得られず、経済情勢の悪化にもよるが、約束どおりに町の行政的協力はなく、町議会をひらけば会社への中傷、非難を浴びせながら相当の経費を投じてきたのに対してなんの協力もせずに土地代金の利子と税金で利益をあげているのだから、一億円や一億五千万円では町の買戻しには応じないものとみられています。

（以下裏面へ）

## ニュースを斬る

### 選挙でだまされたのか

◆…米価シーズンを迎えて農民は選挙にだまされたと抗議の声をあげています。

◆…このたびの参議院選挙で米作農民は自民党を支持したのに裏切られたかのような印象をあたえていますが、農民は本当にそんな自民党は自分たちの味方だと思っているのでしょうか。

◆…たしかに肥料はあがり飼料はあがり農業機材はあがり労働力を考えた場合二万円以上でなければ採算がとれないのに、ことしもまた要求が入れられず一万七千円台に押えられたので農民が怒るは当然ですが、これにともなって畑作、酪農地帯での低農産物価格と低乳価が"保証"されたようなものです。

◆…肉体なり頭脳なり技術なりを提供して賃金で生活する勤労者と違って、土地、建物、営農機材を所有して自から生産手段をもつ農民は経営者であるとして、なにか資本家階級に属してでもいるかのように、保守的に"静世天下"の保守政党によりすがってはいるものの、相手は金融、セメント、肥料、飼料、農業機械などの大企業、大商社の利益を守るために存在している保守政党なのですから、選挙でだまされたというよりも農民自体が間違った選挙をしているのでは―。

◆…農業構造改善だの振興山村だの新農業村建設などの補助事業によって一番もうかっているのはだれか"借金コンクリート"で苦しんでいるのはだれかということで、農民と油はしぼればしぼるほどよい、農民は生かさず殺さずの伝統は"保守"されています。

◆…そこへいくと生産手段をもたない勤労者は組織の力でストをもって要求をつきつけてたたかう能力をもっていますが、農民の場合は代表者を東京へ送って気勢をあげる程度で、自民党政府にとって痛くもかゆくもないことで、まあうるさいから代表者の顔を立ててチョッピと色をつけるのがオチで、生産手段をもちながら大企業のように自分の作ったものに自分が値をつけられない、井伸手ももたない農民は、失礼ながら賃金労働者より弱い存在といえます。

◆…そして選挙ともなれば、形は農民代表を装いながら実質は大資本、大商社の利益代表の保守政党候補に一票を投じておきながら選挙にだまされたというのは自己むじゅんで、自分で自分の首を締めているようなことはやめて、なんとしてもこの次の総選挙でシッカリしなければ！。


暑中お見舞申しあげます

## 陸別町議会

議長 竹内千代蔵
副議長 松台国雄

総務常任委員会
委員長 宮古秀
副委員長 高橋謙
西野一郎
西岡允男
池沢英治
矢鍋正信

産業建設常任委員会
委員長 斑野竹男
副委員長 高橋一吉
佐々木茂雄
新藤万亀男
岡部義延
北村国雄

厚生常任委員会
委員長 渡辺平吉
副委員長 西村秀雄
松台国雄
林保治
藤沢勉

議会運営委員会
委員長 矢鍋正信
副委員長 新藤万亀男
林保治
北村国義
藤沢勉
池沢英治

議会事務局
局長 桜井一
野下銃一

## 足寄町議会

議長 大滝弥助
副議長 大久保繁

総務常任委員会
委員長 遠山謙
副委員長 矢野寛一
大久保繁
吉田吉之助
鳴海一郎
鷲尾賢

産業経済常任委員会
委員長 神本三也
副委員長 高橋佳夫
佐々木啓一
斉藤林一
大塚正夫
畠正吉
多治見敏一

建設常任委員会
委員長 高橋舜
副委員長 石田富男
久保田庄太郎
横田文治
五十嵐信雄
花田勝男

文教厚生常任委員会
委員長 香川博彦
副委員長 高橋幸雄
大浦武夫
阿部俊夫
板谷源平
松崎稔

議会運営委員会
委員長 吉田吉之助
副委員長 鷲尾賢
矢野寛一
石田富男
板谷源平
松崎稔

議会事務局
局長 猪狩義成
石井俊宏
鈴木美枝子

## 本別町議会

議長 方川新一
副議長 高木章

総務常任委員会
委員長 天野明治
副委員長 山田鉄郎
作間勝雄
朝日明
山口勝雄
松下一敏
高木章

建設常任委員会
委員長 新島芳雄
副委員長 川口正夫
井出利一郎
佐野繁

文教厚生常任委員会
委員長 島居健太郎
副委員長 森正勝
賀陽寛了
小川健次郎
北村和郎

産業経済常任委員会
委員長 矢吹正義
副委員長 真木利光
野崎武

井上俊也
佐久間正光

議会運営特別委員会
委員長 作間勝雄
副委員長 朝日明
高木章
小川健次郎
川口正夫
新島芳雄
北村和郎

議会事務局
局長 篠田照三
石川勝子
吉川百合子

## 池北三町消防事務組合

管理者 小林弘道
議長 大滝弥助
消防長 播省三
足寄消防団長 久保与一郎
本別消防団長 島居健太郎
陸別消防団長 山本憲一

## 池北三町浄化センター組合

組合長 小林弘道
議長 竹内千代蔵